

2021 年度「学会論文賞」の報告

医療経済学会では、医療経済・医療政策研究の発展を図るため、2009 年に「学会論文賞」が設立されました。

この賞は、医療経済学会雑誌である「医療経済研究」に掲載された研究論文の中から与えられるものであり、賞状のほか副賞として賞金(提供:医療経済研究機構)が贈られます。

2021 年度は学会論文賞については、2022 年 9 月 3 日開催された医療経済学会 総会にて、以下の通り報告されました。

「無人航空機(ドローン)を活用した自動体外式除細動器(AED)ネットワーク構築における費用対効果評価の分析」

白根 友哉 先生 (放送大学大学院博士後期課程生活健康科学プログラム)

授賞理由：

本論文は、茨城県内の消防署を基地局と想定し、2008～2012 年における救急蘇生統計(ウツタインデータ)を用いて、無人航空機(以下、ドローン)による自動体外式除細動器(以下、AED)ネットワーク構築という、今までにない独自の視点で、費用対効果評価を行った研究である。臨床イベント、気象条件、人口カバー率等の違いによる多様なシナリオを想定し、精緻な感度分析を行った結果、現時点では、中央社会保険医療協議会が示す増分費用効果比(ICER)の条件(500 万円)は満たさなかったものの、さまざまな観点から、AED ドローンネットワーク構築の有効性に係るエビデンスが示されている。本研究は、昨今、医療機器や処方薬の輸送手段として注目をされているドローンの可能性を明らかにした稀少な研究であるという点で、高く評価することが出来、編集委員会一致で推薦となった。

医療経済学会では、医療経済・医療政策研究の発展を図るべく 2009 年に学会論文賞が設立されました。また 2012 年からは、若手研究者の研究奨励を図るべく、新進気鋭の若手による意欲的な論文を評価してきました。次年度以降、若手諸氏の意欲的投稿を引き続き期待するとともに、わが国の医療経済・医療政策研究の発展につながる質の高い論文の投稿をお願い申し上げます。

『医療経済研究』編集委員長 野口 晴子